

春風秋雨相

江利川毅 県立大理事長



日本社会の体質改革

急がれる国際化対応

アトランの座を明け渡していく。では、海外留学生を20年までに12万人と倍増することにしていく。文部科学省を中心取り組んでいるが、これを実現するには、税制も含めた教育資金面の充実や企業の人材育成への積極的な投資も必要である。しかし、本質的な解決には異次元の取り組みが必要ではないだろう。

心配していた。英語の話せない私は、外国人と会うのも外国人に行くのもちゅうちょしがちであるが、「それでは駄目だ」とたた。「ドバイで、たまたまハーブ」

21世紀の受賞者数は、アメリカノーベル賞の自然科学部門の民受け入れの圧力も小さく、テ

●バイリンガル育成 日本語文化のために、移入するためには、日本人であるからには、日本語と日本文化、日本の歴史を学び、日本人としてのアイデンティティーを持つことは重要である。しかし併せて、日本が国際社会に開かれているためには日本社会の体質改革が必要なのである。この体質改革には、国民全体の強い意識、継続的な努力、国のトップの強いリーダーシップが必須である。

しかし「一燈照隅（いつとうじょうぐつ）、万燈照国（ばんとうじょうこく）」の教え通り、家庭では4歳ぐらいから英語を習わせていると聞く。日本は中学校3年「英検3級」7割合格といふ。それも大事なことではないかと思う。

長く海外に駐在していた友人の話である。「1月中旬にニューヨーク科学アカデミーの責任者と会った時、こんなことを言われた。日本の研究者、特に研究機関のトップはアメリカに来なき過ぎる。研究プロジェクトを各国の研究者と一緒にやっていくが、日本には声を掛けていない。女子中学生を対象にした若手研究者育成プログラムを推進しているが、日本人は参加していない。日本人に会わないの日本が思い浮かばない」

彼は「日本パッキングが進んでいる。研究者だけでなく政府要人も企業のトップも海外に出発度が少なく、出て行つても滞在期間が短いため人間関係が形成できていない。このままで世界に取り残されてしまう」

■海外留学生の減少 教育の分野を見ても、日本の地位は低下し続けている。例えば大学の世界ランキング。昨年10月のイギリスのタイムズ誌の発表では、日本トップの東大は前年の23位から43位へ。シンガポール大学、北京大学に次いでアジア3位と、前年までのアジ

しなめられた。

■海外留学生の減少

バード大学卒業生の集まりに出に次いで日本は2番目。スポーツたが、政財界のトップがすりつと集まっていた。同窓会が重要な意見交換の場になつていて、彼らがハーバード人脈を通じて、世界につながつてていると思う。世界に出て行つても、日本に留学し研究したいという外国人は少しあるが、日本でしか使えない言語を覚えて、日本に留学する。

工業技術部門での日本の評価は高い。TPPも日本が世界経済の中でも一層活躍するチャンスをもたらすかもしれない。ニューオークでは世界の動きが見えて、日本が孤立しているようには思え

ない。

■ガラパゴス現象

安倍内閣の「日本再興戦略」

では、海外留学生を20年までに12万人と倍増することにしていく。文部科学省を中心取り組んでいるが、これを実現するには、税制も含めた教育資金面の充実や企業の人材育成への積極的な投資も必要である。しかし、本質的な解決には異次元の取り組みが必要ではないだろう。

心配していた。英語の話せない私は、外国人と会うのも外国人に行くのもちゅうちょしがちであるが、「それでは駄目だ」とたた。「ドバイで、たまたまハーブ」

21世紀の受賞者数は、アメリカノーベル賞の自然科学部門の民受け入れの圧力も小さく、テ

●バイリンガル育成 日本語文化のために、移入するためには、日本人であるからには、日本語と日本文化、日本の歴史を学び、日本人としてのアイデンティティーを持つことは重要である。しかし併せて、日本が国際社会に開かれているためには日本社会の体質改革が必要なのである。この体質改革には、国民全体の強い意識、継続的な努力、国のトップの強いリーダーシップが必須である。

しかし「一燈照隅（いつとうじょうぐつ）、万燈照国（ばんとうじょうこく）」の教え通り、家庭では4歳ぐらいから英語を習わせていると聞く。日本は中学校3年「英検3級」7割合格といふ。それも大事なことではないかと思う。

（次回は3月14日付）